

# チャレンジ酪農推進事業

事業期間：R3-5

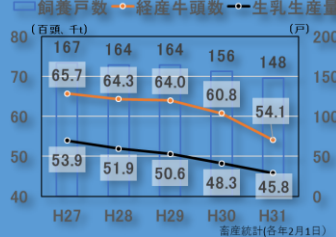
予算額：(R4) 11,027千円

性選別精液等の活用により自家産乳用雌牛を生産し、育成預託施設等を活用した乳用後継牛を確保する取組みを推進することで、減少した搾乳牛頭数の回復につなげ、持続的な酪農経営の実現を図る。

## 現状・課題

### 収益性低下

- ・頭数・生乳生産量低下 (集乳経費負担増)



①肉畜生産による所得確保  
・自家産後継牛の割合縮小

②育成労力・施設不足  
・育成期間の労力不足  
・育成スペース確保困難

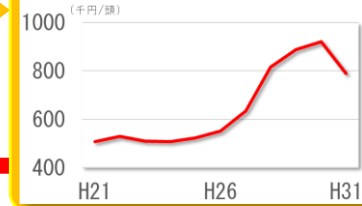
乳用後継牛不足

導入頭数・収入減少  
・搾乳牛頭数減少

外部導入に依存した後継牛確保

・北海道からの初妊牛導入

初妊牛価格高騰  
ホクレン初妊牛価格



## 必要な対策

## 事業内容

### 自家産後継牛の増頭

①自家出生乳用雌牛増頭推進事業 (7,150千円：1頭55千円)

肉畜生産から効率的な乳用雌牛生産へシフトし、後継牛の確保を外部導入から自家出生雌牛へ切替える取組を支援

### 外部委託施設活用による労力軽減・育成場所の確保

②乳用育成雌牛増頭事業 (3,500千円：1/2以内、ただし上限50千円/頭)

乳用後継牛確保のため、共同育成施設利用にかかる費用の一部支援

## 目指す姿

- ・ 乳用後継牛を外部導入に依存しない、収益性が確保できる生産体制の構築
- ・ 長命連産による更なる所得向上、生乳生産量増加による酪農生産基盤の維持・強化

### ①収益性向上・経営体質改善

- ・ 性選別精液を活用した自家生産後継牛確保、効率的な交配計画による生乳生産量増加

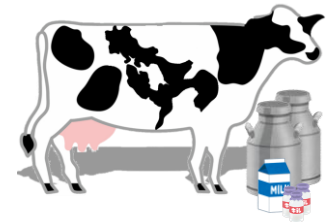
### ②育成牛預託施設活用

- ・ 育成牛確保
- ・ 労力・スペースを外部預託化



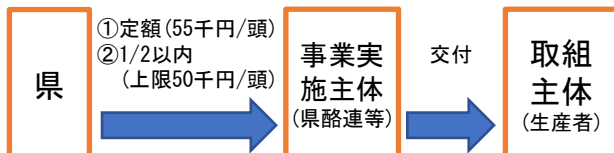
### 外部導入頭数縮小

- ・ 外部導入依存割合を低下
- ・ 市場価格に左右されない持続的な経営の実現



## 好循環な経営システムの構築

## 事業の流れ



事業項目	R3年度	R4年度	R5年度
事業事務		後継牛確保計画 計画承認～交付決定	~2月末日 概算払請求
①	期首 2/1	((期末日の12か月齢未満頭数) - (期首日の12ヶ月齢未満頭数)) × 55千円	期末 2/1
②		交付決定日 期首日～期末日までの間の預託にかかる費用の1/2 (上限50千円/頭)	~3/31